

東京 防災まちづくり大賞消防庁長官賞 KCMと倉敷市に表彰状

高部正男消防庁長官から表彰状を受け取るKCM代表の大久保憲作エフエムくらしき社長(左)



「第十二回防災まちづくり大賞表彰式」(総務省消防庁など主催)が二十九日、東京都内で開かれ、消防庁長官賞(防災情報部門)に選ばれた倉敷コミュニティ・メディア(KCM)のエフエムくらしき、倉敷ケーブルテレビ、玉島テレビ放送の三社で構成し、倉敷市に表彰状が贈られた。

災害時、自動的に電源が入り避難勧告などを伝える緊急告知FMラジオをKCMが開発。倉敷市がこのラジオを市内の福祉施設などに配備し、FMラジオやケーブルテレビと協力して緊急情報を発信する官民連携の防災体制づくりが評価された。表彰式には関係者約七十人が出席。高部正男消防庁長官が「防災対策は、各分野のいろいろな力を結集することが大切。受賞を契機に、さらに活動に励んでほしい」とあいさつし、KCM代表の大久保憲作エフエムくらしき社長と伊東香織倉敷市収入役に表彰状、記念品を手渡した。

大久保代表は「受賞は大きな励み。今後、防災におけるコミュニティメディアの役割はますます重要になる。倉敷の仕組みが全国に広がっていくことを願う」と話していた。

このほかに丸亀市の川西地区地域づくり推進協議会が、消防科学総合センター理事長賞を受賞した。

(瀬尾由紀子)